よくをわすれてひのきしん

教祖140年祭

If you do not follow the path of the Divine Model, there is no need for a Divine Model…There is no path but the path of the Divine Model.
Osashizu, November 7, 1889

ひながたの道を通らねばひながた要らん。（略）ひながたの道より道が無いで。
（おさしづ 明治22年11月7日）

「日々常々、何事につけ、親神の恵を切に身に感じる時、感謝の喜びは、自らその態度や行為にあらわれる。これを、ひのきしんと教えられる。」

（天理教教典第八章「道すがら」より）

私の祖母は夫の病気から信仰を始めました。医者から「たすかりません」と言われ、教会に家族で住み込みました。会長様奥様から「一生懸命ひのきしんをするように」と教えられ、祖母はきっとたすけて頂けると信じて、朝から晩までひのきしんに明け暮れました。

ところが夫は出直し、あまつさえ娘も夫と同じ病気で出直したのです。

そのときの祖母の心は如何ばかりだったか、想像もできません。

それでも祖母は短気を出さず、ひのきしんに生涯を伏せ込んでくれました。

よくをわすれてひのきしん
これがだい、ちこえとなる（十一下り目）

「欲」とは、過度な見返りを期待する心と言えましょう。祖母は初めはたすけて頂きたい一心で信仰を始めたのですが、次第に親神様のご守護や教祖ひながたの道に目覚め、欲を忘れてひのきしんに喜びを見出したのだと思います。それが我が家の信仰の礎となりました。

いま孫子の時代になる私たちは、祖母がつないでくれた信仰のおかげで、ひのきしんが出来る有り難さを身に感じつつ、日々明るく陽気に通らせて頂いてます。

本島大教会布教部（み）

天理教本島大教会